

所信

はじめに

1959年自分たちが住んでいる地域をもっと活気づかせたいと、諸先輩方が地域の未来を見据え、若い力と熱き想いで、この地域に上田青年会議所を立ち上げ活動を始めました。以来青年会議所運動は、メンバーと地域住民が交流を深めながら様々なまちづくり活動を展開・発展をしてきました。その高い志が受け継がれてきたことで、昨年上田青年会議所は認承 55 周年を迎える事ができました。

1950年から日本の経済は急激な成長を遂げ高度成長期に入ったことで、地域住民の生活が大きく変わった時代から 12 年後バブル崩壊、日本の経済成長が滞り「失われた 20 年」と評され、仕事はもちろん生活にも影響が出るほど経済状況が悪くなった時代に私たちは生まれ育ってきました。

高度成長期では失敗を恐れず、まず行動といった前向きな考え方でどんなことにもチャレンジしてきた時代に比べ、近年では失敗を恐れるあまり、ネガティブになることで知らず知らずにチャレンジ精神が少しずつ薄れてきているのではないのでしょうか。私たちが大人へと成長し社会人になった時代では低成長期の時代だった為、バブル期との温度差を直接肌で感じているわけではありません。周囲の環境やメディアから受ける情報によって無意識にネガティブになり、失敗を恐れるあまり身を引いてしまうような行動を取ってしまうこともあるかと思います。「今の時代は不景気だから」、「過去は景気が良かったから」などと時代に囚われ、過去を僻むのではなく、常にポジティブに物事を考えるべきだと感じています。

私たちは会社の責任者であり、社会の責任者になり得る者として、いつどこで何が起こるか分からない時代だからこそ、青年である私たちが勇気と情熱と決断力を持ち、仲間と手を取り合い、共に行動することが「明るい豊かな社会」の実現へ力強く歩んでいけるのだと信じています。

本年度上田青年会議所は、認承 55 周年で掲げた活動指針を基に地域の未来へ向け、メンバー一丸となってお互いを思いやる気持ちを大切に、人が集う地域づくりとなるような活動を行ってまいります。

絆と信頼 ～思いやる気持ち～

人はこの世に生まれ、生きていく上でお互いを信じ、助け合うことで『絆』が生まれると思っています。

人は誰でも困難な事に直面すると辛くて不安になり、心がとても苦しくなることで逃げ出したくなります。その時、陰で家族や仲間の助けや支えがあるからこそ、心の苦しみが和らぎ、困難な事にも逃げることなく立ち向かうことで大きく成長できるのだと考えます。私た

ち青年会議所の活動も同じではないでしょうか。活動を行っている時にも困難な事に直面することが何回も出てきます。そんな時に一人で立ち向かうのではなくて仲間に手を差し伸べ、助け合い、困難な事に立ち向かって乗り越えることで、お互いの『絆』が生まれるのだと考えます。

仲間と活動を行っているとき楽しいときは笑顔で活動ができます。しかし困難という壁に直面したとき、笑顔が無くなり、苦しくなります。そんな時だからこそ仲間に寄り添い手を差し伸べて助け合うことがとても大切なのです。自分だけが楽をして『楽しければそれでいい』などの考えは仲間とは言えないのではないのでしょうか。悩んでいる人がいるのであれば、他人事のように見て見ぬふりをするのではなく、同じ仲間として活動を行っているからこそ『自分だったら、この困難にどう立ち向かうのか』、『悩みをどう解決するべきか』を考え、仲間の気持ちを理解して仲間が苦しんでいるのであれば手を差し伸べ、助けてあげることがとても大切だと思います。

仲間を思いやる気持ちは、何より『仲間を信じ』、『仲間を頼る』こと。そしてどんなに辛い時であってもこの想いを忘れなければお互いの『信頼』は得られるものであり、すべてにおいて人と人との間には『絆』と『信頼』がとても大切で必要だと考えます。

責任ある行動

私たちは青年経済人であり、そして何より会社でも責任者になり得る人が多い団体であります。私たち一人ひとりの発する言動には、常に『責任』を持ち続けなければなりません。『責任』にはいくつか存在します。会社での『責任』。メンバーとしての『責任』。役職としての『責任』。大人としての『責任』などがあります。私たちの生活で常に『責任』がかかる中でも、一番重要視する『責任』は、大人としての『責任』なのではないのでしょうか。どんなに自分の思いや理想があったとしても、たった一つのわがままな発言や理不尽な行動をすることで説得力・信用・信頼もなくなると思います。一人の大人として、『責任』ある行動を取らなくてはならないと感じています。

青年会議所は社会や地域の方から大いに期待をされ、尚且つ世間の目は厳しく、常に言動を見られている事を忘れてはなりません。諸先輩方が築き上げてきた上田青年会議所を私たちが受け継ぎ、そして継承をしていかななくてはならない『責任』を常に心に刻み、未来へ向け、さらに邁進して行く『責任』があるのです。

ちいき未来のために

私たちは、青年会議所の理念でもある「明るい豊かな社会」の実現へと、長きにわたり多くの政策活動を行ってまいりました。近年では、この地域の未来へ向けて創り上げてきた政策に対して、時代の変革と共に地域社会が要求するものが高くなり、この地域に生活してい

る人達との連携感と愛情を今以上に育んでいかなくてはならないと感じています。本年度は認承 50 周年に掲げた未来ビジョンを達成するために、昨年認承 55 周年で掲げた活動指針『人が集う上田 JC へ』に沿い、新たに違った視点から見つめ直し、地域に必要なものは何かを見出していく必要があると考えます。

その為には、私たちの力だけで創り上げ発信していくのではなく、行政・各種団体・地域住民と共に連携を取り、愛情を育みながら活動していくことが重要であり、活動圏域に人が集う地域にするには、私たち自身が自ら行動を起こし、地域のすばらしさ・誇らしさを知り、上田青年会議所のメンバーとして地域の更なる発展への一助になるよう活動を行ってまいります。

こどもと共に

近年、子供たちのライフスタイルは時代の変化と共に変わり、学校ではパソコンを使う授業などを取り入れ、今では小学生に防犯上携帯電話を持たせることが多く、その為子供たちは携帯電話での遊びが増えてきていると感じます。近年子供たちの遊びの中で、携帯ゲームやテレビゲームなどデジタル化が進み、外で他人とのふれあいを感じながらの遊びが少なくなってきたと感じます。パソコンなどのゲームもハイテク化し、チャットゲームやオンラインゲームが盛んになり、そのため家の中で一人になる時間が増え、子供達のコミュニケーション能力が低下しているのではないのでしょうか。

子供にとって大人や友達とふれあう事により、共に多くの事を学べる大切な時期にも関わらず、学校が終わり、家でパソコンゲームやチャットで会話をする事が多くなったことで、社会的な常識の判断がつかず、生活もゲーム感覚の様な認識をしてしまい、自ら罪を犯すような事が増えてきているのではないのでしょうか。子供たちにとって人間関係がどれほど大切であり、人と関わる事で将来大人になって役立つ事があることを私たち青年会議所メンバーが再認識する必要があると考えます。

今の時代では親が共働きをしているため、親と子のコミュニケーションが薄れているのではないのでしょうか。仕事は生活を養うために必要ではありますが、親の役目として仕事だけではなく、子供とふれあい、子供の温もりを感じて子供の成長を見続けることが大切です。私たちは、大人から子供の他世代でふれあうことの出来る環境づくりを行い「共に育み」、「共に学び」お互いに未来へ向け成長していくことが青年会議所の理念である「明るい豊かな社会」の実現へと近づいていくと考えます。

ちいきの活力をあげるには

この地域の活気をより向上させるには、地域住民との繋がりや私たちの活動に沢山の人が集うことでより一層盛り上がり、今以上に地域の活力が生まれるのではないかと考えます。

人が集うことは、活力の原動力になり、今以上にこの地域にも今以上の賑わいや人との繋がりをつくることで、活気に満ち溢れる地域にしていくための一助になると考えます。

活力を向上させるために、行政・各種団体と共に連携をとり、私たちが活動を発信していく事が大切なのです。

私たち上田青年会議所の活動の中で常に身近にあるお祭りがあります。46年前に「市民総参加」「市民総和楽」のもと私たちの先輩たちが熱き想いで立ち上げた上田わっしょいです。昭和の大合併の歴史と共に育まれてきたこのお祭りは、今年で46回目を迎え時代と共に変化をし、上田市民のみならず上田地域外の方の参加者も多くなってきていると感じています。もはや今、上田わっしょいは上田市を代表するお祭りになってきたのです。この上田わっしょいへ、地域に住む住民のみならず活動圏域外の方もより多く参加してもらい、もっと盛り上げていけるように活動を行ってまいります。

参加者が様々いる中でお祭りに対する地域住民の見方や想い、参加者の気持ちが変わってきているからこそ、上田わっしょいを違った視点から考え、積極的に参加・協力をしてもらう意識付けを行い、地域に人が集うことで地域の活力をあげる一助となると考えています。

私たちのアピールそして成長

昨年、認承55周年記念式典で60周年へ向けた活動指針「人が集う上田JCへ」を掲げました。私たちの活動を地域により広く発信していくために、行政・各種団体との連携のみならず、ホームページやインスタグラムなどを活用し発信していきたいと考えています。活動圏域に住むより多くの地域住民に私たちの活動を知ってもらうことで、私たちの活動に多くの住民に興味を持ってもらい、事業やまつりに多くの人が集まることにより、活動指針「人が集う上田JCへ」の一助になるよう活動を行ってまいります。

また、私たち青年会議所メンバーは、青年経済人であり、会社のリーダーとなり得る人が仕事を行いながら、日頃「明るい豊かな社会」の実現へ向け活動を行っています。しかし地域の未来のために活動を行うだけでなく、メンバー自身の考え方や手法を学ぶことも重要だと思えます。

青年会議所活動にはメンバーの資質向上を行う事業や例会などがあり、より多くの事を学ぶことができます。同じ志を持った仲間に出会い、活動を行い多くの事を学ぶことで、家庭や仕事にも役立つと考えます。

自分の『成長』は、青年会議所活動を理解して支えてくれている会社・家族への恩返しになることだと信じています。

感謝と願い

メンバー一人ひとりが青年会議所に入会をした理由は様々だと思います。「仲間を作るために入会をしたい」「地域のために活動をしたい」「自分を磨きたい」など、想いは人それぞれ違う理由で入会をしています。私が入会をした理由・・・それは上司に「行ってこい」、ただそれだけでした。何も知らず向かった先が上田青年会議所の例会会場でした。今思えば上司の一言がなければ、地域のために活動することはなく、活動を通じて今まで感じた事がない経験が出来た事や大勢の先輩と出会えたこと、多くの仲間との出会いも無かったと思います。入会をしたことで多くの事業への取り組みや役職を与えていただいたこと、様々な経験をさせてもらったことに『感謝』しています。

もし、活動する中で自分に与えられた役割や使命に対し、言い訳をして背を向けるのではなく、色んな事に取り組むことで自分の成長への過程にしてもらいたいと思います。

JC 活動だけでなく、会社や社会でも自分に課せられた使命はチャンスだと捉え、『できるか』『できないか』ではなくて、自ら『やろう』という思いがとても大切だと私は考えています。自分の心の中に強い信念を持って活動に取り組んでほしいと願っています。

ただ JC 活動だけに没頭するのではなく、仕事、家族の時間も大切にして活動をしていかななくてはなりません。スケジュールの調整をすることと、自分の想いを会社と家族に理解してもらおうことが、活動していく為に重要であり己の技量であると思っています。

私たちが JC 活動を行えるのは、会社のサポートや家族の支えがあるからこそ、活動が出来ることを忘れないでほしいのです。

私たちは会社や家族・仲間に対し、この『感謝』の気持ちを絶対に忘れてはなりません。

【基本事業】

- ・メンバー全員による会員拡大運動の実施
- ・公益目的支出計画に基づいた事業の実施
- ・ちいき共育の実践
- ・ちいきに集うまちづくりの推進
- ・ちいきへの活動発信
- ・各種団体との地域連携の実施